

越前竹細工

えち ぜん たけ ざい ぐ

地元材料と道具で作り上げる
地元尽くしの逸品。

竹の骨組みに和紙を何度も貼り重ね、漆で塗り仕上げの一閑張りです。竹は工房の半径10km以内の孟宗竹で、毎年11下旬～12月上旬に伐採し、使える材料に加工します。

「竹を火で曲げた後、水で締める火曲げ作業は、季節毎に曲げ具合も変わるので重要です」

大正元年、徳川慶喜公より竹廣齋の号を授与されて現在で4代目。かつては、皇室の衣装入れとして献上したこともあります。

竹と和紙、漆使用の全工程手作りとなつて防虫効果が高く、丈夫で長持ち。行李やカゴ、小物入れの他、孫渡し品で購入する人もいます。

セズUp術

『国盗り物語』にも登場。

地元竹と越前和紙、河和田塗を使い、作業に使う道具は越前打刃物。まさに地元尽くしの逸品です。また以前、作家司馬遼太郎氏がこの地を訪れた際に4代目が案内。工房も気に入ったことから、『国盗り物語』にも登場しています。

製造者／野原竹工所
住 所／福井県鯖江市戸口町20-15
T E L／0778-65-1010
F A X／0778-65-1010

平成28年11月25日指定

